



# 霞ヶ関中だより

＜学校教育目標＞自主の誇りをもち、未来を拓く力を持った生徒の育成

＜12月の生活のめあて＞2学期を振り返り、身辺の整理整頓に努めよう。

12月号 令和7年12月2日（火）



## 自らに勝つ

校長 守岡 信一

季節の移ろいも早いもので、猛暑の8月下旬から始まった2学期も、あと3週間で終業式を迎えます。体調に留意しながら、この2学期をしっかりと締めくくり、次へ繋げてほしいと思います。

「自らに勝つ」とは、プロスポーツ選手などがよく話している言葉で、相手に勝つためには、まず自分自身に勝つことが必要であるという意味で使われます。もともとこの言葉は中国の書物「呂氏春秋」に出てくる言葉で、遠い昔、中国のいわゆる戦国時代に実際の体験を通して生まれた言葉だそうです。「呂氏春秋」には「自らに勝つ」ということについて次のように書かれています。

「人に勝たんと欲する者は、必ず自らに勝ち、人を論ぜんと欲する者は、必ず自ら論じ、人を知らんと欲する者は、必ず自ら知る」

人に対して何かで勝とうとするときには、まず、自分自身が様々な欲望に打ち勝つ必要があること。また、論じたり、他人をさらに知ろうとしたりするときにも、まず、自分から動き始めなければならないと私なりに解釈をしています。

このことは、プロスポーツ選手だけに当てはまるのではなく、私たち一人一人の生活においても同じだと思うのです。これから、みなさんには様々な形での試練があることと思いますが、それに負けないよう、自分をコントロールし、向き合ってほしいと願っています。

人は誰でも不安です。しかし、人生の主人公はあなたたち自身です。自分が、自分で、自分を、育てる（つくる）のだということを忘れないでください。周りにいる先生方や保護者、地域の方々は、みなさんの一一番の理解者ではありますが、支援者、応援者です。根本は何と言ってもみなさん一人一人自身にあるのです。特に入試に挑む3年生には、自分の欲望に負けることなく、夢を掴んでほしいと心から願っています。みんなさんの未来はきっと光輝いています。どんなことでも、必ず自分のためになる信じて、力強く突き進んでほしいと願っています。これからも霞中生の輝く姿を楽しみにしています。

